

私のレポート（主観）を記します。

24日の13時30分に緊急災害対策の高橋委員長宅から、マスク64,000枚と江戸川東のメンバーからの女性用下着、子ども用衣類などを積み込み、西荻北商店街やみやこLCからの物資も積み込み、浜松町LCからのマスク184,000枚を積むため柏の倉庫に向かいました。

積み込みを終え、現地に向かう車中に坂本潤之輔Lから電話が「中小岩小学校に積みきれない物資がある。積んで行ってほしい」、実際積み荷には相当余裕がありましたので、一度東京へ引き返し積み込むことに。

100箱くらいと言っていたが、実際には300箱以上積んでさらに積み込めない物もありました。

予定をはるかに遅れて出発しました。

予定になかった物資は車中での電話のやり取りで一関に降ろすことになりました。

従いまして、私たちの予定は、26日 7:30一関インター付近で受け渡し、盛岡の集積所にマスク、塩釜の集積所にマスクと衣類、猪苗代の集積所にマスクと江戸川東の物資をそれぞれ下すことになりました。

現地は想像をはるかに超える悲惨な状況です。

盛岡や猪苗代の集積場は、被災地からかなり離れたところにあります。

ほとんど震災の爪痕は感じられません。ところが塩釜の集積所（志賀元ガバナーの石材店）は、到着してびっくりしました。付近に行くまでは他の集積場と変わりはありませんでした。

ところが少しゴミが目立ち始めたと思ったら、一気に景観が変わりました。

町中が瓦礫の山、建物は大きく歪み破壊されておりました。

そんな真ん中にこちらの石材店があり、港の真ん前に位置しておりました。

建物こそかろうじて残っておりましたが、1階2階ともに津波によって破壊されておりました。

「ここが集積所？」と思い車を前に止めると、中から志賀元ガバナーが出てきてくれました。

「いや～申し訳ない。ありがとうございます。」と深々と頭を下げて「こちらへ」とわきの道に案内されると、そこには2台トラックが待機しており、社員の方がご近所の方がわかりませんが、みなさん「ありがとうございます」と深々と頭を下げ、すぐに積み込みを完了しました。

そして志賀元ガバナーが「小学校に持って行け」と指示を出しておりました。

そこには町長も挨拶に来てくれておりましたが、どのようにお見舞いの言葉をかけていいのかわかりませんでした。

積み込みが終わると、志賀元ガバナーが「おいだれか写真撮ってくれ」と今はあまり見かけないフィルムの使い捨てカメラで記念撮影をしました。「私のカメラもお願いします」と差し出すと「おー、デジカメだ」と冗談を言う方もいました。

「では」と言って別れると、今集まった人たちはすぐに瓦礫の片付けに戻り作業を始めました。

その後少し離れて、向かいの港に行きましたが、そこにはとても信じがたい光景がありました。

何人かの人たちが、黙々と作業をしておりましたが、漁港には遺体と思われる黒いビニールの袋が山のようにあります。

いったいどこから手をつけていいのかわからない。あまりのショックに愕然として言葉が出ませんでした。

皆さんも報道で（もちろん私も）大変な状況は理解しておりました。

これは私の主観ですが、現地ではなんでも必要なのではないかと思いました。

うちのクラブの衆議院議員の初鹿も現地入りしたようで、クラブメンバーにメールが届いておりましたが、「彼は食料は行き届いている」、「紙おむつや粉ミルクも大体足りている」、「今不足しているのは下着・靴下・靴、とくに下着だ」と書いておりました。

私の意見は違います。確かに足りているもの足りていないものがあると思いますが、まず、集まった物資を配布するやり方に問題がある。

それと、私たちは「余っているから」ということで、食料の支援をストップするということではなく、米を山積みにしてあげることで、みなさんに安心感を与えることもできるのではないか。

先日の定例会では、「古い衣料品はゴミになるのではないか」という意見を述べましたが、被災地に行くと考えは変わりました。そして現地は大変寒いです。

どんな寒い思いをしているのかと思うと、少しでも暖かくしてあげたいと思ってしまいました。

集積所と被災地の現場の雰囲気は大きく違います。

テレビで見たはずの光景なのに、本当に胸が詰まります。

あまりにも大きく広範囲の災害なので、私たちは全員を救うことはできませんが、目の前にいる人の元に行って励ますことしかできないのではないかと感じています。

「今、どうしていいのかわかりません」というのが感想です。すみません。

L 茅島純一